

赤城黒檜山山行記録



目的地	赤城黒檜山	期 日	平成17年7月3日(日)
山人	笠原正雄・高橋俊明	特 記	伊香保同宿の学友高橋と山を歩く。

地名	(着)～(発)	天候	記 事
伊香保仁泉亭	午前9:10 発	霧	仁泉亭から田中秀樹のナビ付車に先導してもらい、赤城道路から大沼へ。道路標高は1500mを超えるまでとなっている。登るにつれて霧が濃くなる。大沼湖畔Pで田中車同乗の佐藤・木村と別れて二人で北登山口へ。
北登山口 P	10:35 発	霧	すぐ岩の登りから始まる。高橋が先を歩いたが、息づかいが気になったので、今度は俺が先頭にたち、ペースをセーブしながら歩く。
尾根に上がる	11:15～11:20	薄曇	休む。一度霧が薄くなって下の大沼が望めた。ウジロウラの落花が道を赤くしている所が多くあった。校内遠足にでも来るのだろうか、登山道の要所々に熊谷東中学校の杭表記がある。一時は日差しを受けた。
稜線分岐	12:00	〃	左折して山頂に向かう道は、繁茂しているツツジの木に挟まれて、縫うように歩く。ただし、花は一部を残すのみであった。
黒 檜 山	12:05～1:00	〃	20人程いた。開けているのは一方向だけだが、雲で展望は無い。シートを敷いて酒無しの昼食。パン・α飯&缶詰。日焼け防止にシャツを羽織る。
花見ヶ原分岐	1:05	曇	稜線分岐を直進して黒檜山大神前を過ぎ、花見ヶ原方面を左に見送り木道階段を降りて大沼方面へ向かう。
大 タ ル ミ	1:30	〃	標識前を通過。
駒ヶ岳	1:40～1:45	〃	登り返して側道の左上に上がると標柱がある。
休憩ベンチ	2:00～2:00	〃	樹林の尾根から下り始めて広い平に出るとベンチが置いてある。
木道階段から鉄製階段へ		〃	緩やかな木道階段が終わると、両側が手すり付で、一人幅の急降下鉄製階段が始まる。まるで非常階段を下りるようだ。
大沼湖畔 P	2:30 着	霧	ジグザグの下りから車道に出る。ますます霧が濃くなってきた。高橋に荷物番をしてもらい空荷で北登山口まで15分歩き車を回収する。道脇にニコウキスが数輪咲いていた。
与板着	7時	曇	来た道を戻らず赤城道路をそのまま進み、昭和の湯で入浴。高橋を上毛高原駅まで送り、水上ICから高速に乗る。谷川PAで偶然にもYHC小川洋子さんと出会う。小出付近から中越地震の爪あとで、道路がうねっているし、工事で車線規制がされているので、越後川口ICで下道に降りる。帰板してYHC田村さんに会い報告する。

数年ぶりの伊香保の会であった。前日夜更かししたが、熟睡して、4時半に目覚め、起床した。いつもここから見える子持山や谷川岳方面の山風景は、霧で全く閉ざされていた。雨が懸念されたが、霧が深かったものの降られずに済んだ。それにもかかわらず山頂は結構な人数がいた。気軽に登れる百名山といったところだ。

数年前のこの会で高橋が山登りに興味を示していたので、前もって誘ってみた。彼は腎臓の具合が悪く隔日で透析を受けている。行くかどうかは彼の体調に委ねていた。嬉しいことにザックを持参で来ていたので、出掛けることにした。歩き始め彼に先行してもらったが、追いたてるように思われてはいけないと思い、前後を代わった。彼の息遣いに聞き耳をたてながら、ペースをセーブし所々で花を見ながら立ち休みを多くとるようにした。殆んど展望は楽しめなかったが、予定コースを完歩出来て幸いである。旧交を温めながらの楽しい一日だった。